

第3章 地下利用の今後

3. 1 大深度地下を利用した効率的な社会基盤整備と魅力ある都市づくり

大深度地下空間は都市の再生に向けて、社会資本を整備する貴重な空間として多方面での活用が期待されます。

今後の都市整備においては、大深度地下空間の果たす役割は大きく、広域的な交通基盤の整備をはじめとする都市基盤の整備改善、都市のリダンダンシーの確保や水害防止など安全性、防災性の向上、魅力ある都市をつくり出すための土地の高度利用・複合利用の推進やうるおいと品格のある都市空間の形成などに役立つと考えられます。

具体的な利用分野としては、地下空間を活用した広域幹線道路、鉄道、物流ネットワークの形成や、地下を活用した災害時の道路、ライフラインの確保や河川の整備、防災施設や備蓄基地の整備、都心部における地下空間を活用した交通ネットワーク、結節機能の強化や都市機能の集積、地上における高架構造物などの地下収容による都市景観の修復や地上でのオープンスペースの創出などが考えられます。

また、今後は、道路や鉄道、河川、物流等の良質な社会資本の効率的・効果的整備という観点とともに、地下を活用して地上の都市空間の緑や水を再生させるという観点も重要になってきます。

例えば、地上にある施設を地下化することなどにより、地上をゆとりある空間として、緑、せせらぎを取り戻し、都市の美観・環境を回復するとともに、安全な歩行者空間の創出、防災空間の形成等、質の高い都市生活の実現を目指すことも必要であり、このような地表空間の改善も含めた都市再生の観点からの大深度地下利用も考えられます。

このように大深度地下空間は、都市部における新たな利用空間であり、大深度地下の利用により、より効率的な社会資本整備が可能となります。

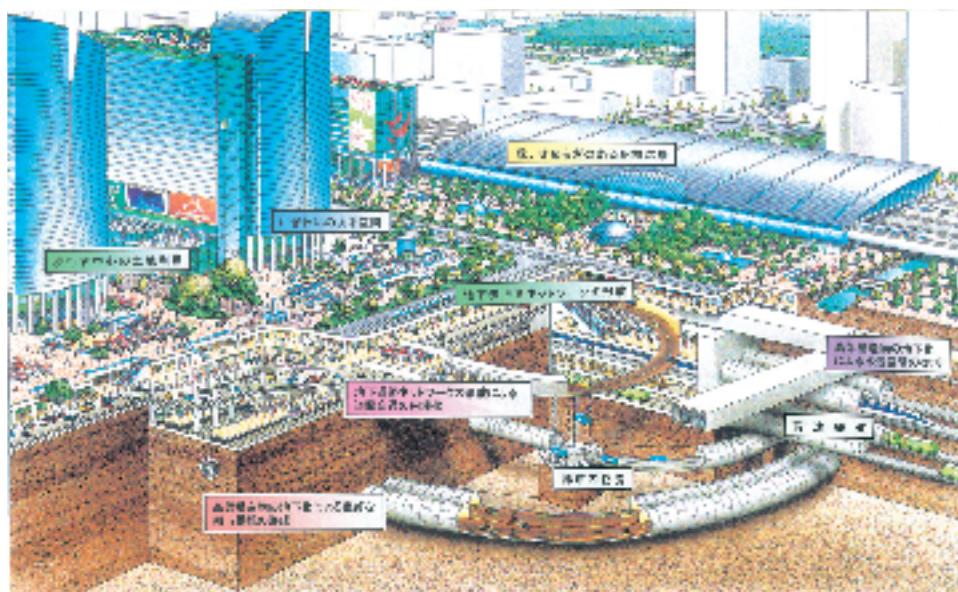


図 3-1 大深度地下利用のイメージ

3. 2 地下利用の構想

都市再生に向けた意識の高まりや大深度地下法の制定を背景として、民間の団体でも様々な地下を利用した都市の再生に寄与するプロジェクト構想が検討されています。

各構想の内容を見ると、線的（トンネル系）施設や拠点施設、人の介在する施設やしない施設などがあり、その用途としては、トンネル系施設では[道路・鉄道複合]、[道路]、[鉄道]、[物流・ごみ輸送]、[河川]、[ライフライン]などがあり、拠点系施設では、[複合ターミナル]、[物流]、[ごみ処理]、[下水処理]、[電力]、[防災センター]、[データベースセンター]など、様々な目的、機能の地下利用の可能性が提案されています。



図 3-2 地下幹線ネットワーク⁹⁾



図 3-3 資源循環ネットワーク¹⁰⁾



図 3-4 都心部拠点ターミナル¹¹⁾



図 3-5 緑地、水辺空間の再生¹²⁾



図 3-6 都市分散型エネルギーネットワーク¹³⁾

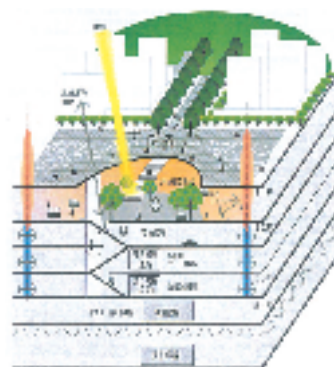


図 3-7 地下交通ネットワーク¹⁴⁾